

人権だより

(令和8年度 9月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次2組

2学期が始まり、先日の体育祭は学校の枠を超えて団結し大変盛り上がりましたね。さて、今年の夏休みはどのように過ごしましたか。8月を振り返ると、戦争と平和に関する話題を聞くことが多かったと思います。戦争は、生命だけでなく学ぶ権利や表現の自由も奪うことから、最大の人権侵害と言われます。では、私たちにあって平和とは何でしょうか？戦争がないことはもちろんですが、「家族と過ごす」「安心して学校に通える」「自由に意見を言える」、これらも身近な平和です。

2学期は様々な学校行事があり、多くの人と関わり、協力して取り組む場面が増えます。相手を尊重する、意見が違って否定せず認める、傷つけない、これらを意識することで、より良い関係を築けると思います。一人ひとりの人権が守られた学校にしていきたいと思います。



今月号は、8月7日（金）に八幡浜高校で行われた「令和8年度人権委員夏季研修会」について、講義の内容や参加した人権委員の感想をお伝えします。

令和8年度 人権委員夏季研修会



八幡浜高校のいずしね館に、川之石高校・八幡浜高校・八幡浜工業高校・三崎高校の人権委員と、八幡浜中学校人権サークルのメンバーと教員約30名が集まり、人権に関する学習会を行いました。八幡浜中学校は、高校のような委員会活動ではなく、人権学習に関心があり率先して取り組みたいという意欲をもった生徒たちが集まって活動しているそうです。

大洲市大洲隣保館 館長の木元 健先生から「相手基準とみんなごと」という題でお話をいただきました。

隣保館とは、地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとして、生活上の各種相談や人権課題の解決のための各種事業を行うため設置された施設です。

「人権とは何か？」木元さんのお話の中には、人権という言葉が何度も出てきました。「人権を難しく考えなくていいんだよ、人権は大切なものだけど、使っても減らない、使えば使うほど増えていくものだから、しまっておくよりも使った方がみんなが得をするよ」という言葉が、とても印象に残りました。

今も社会には様々な差別が残されています。差別＝悪いことだと誰もが分かっているけれど、差別がある現実に関心で傍観しているのは、差別をしているのと同じ、と木元さんは言われました。差別の当事者とは、被差別の立場にある人や差別をする人だけをいうのではなく、それを容認している社会に生きている私たちすべてが当事者であることに気付いてほしい、という言葉に改めて考えさせられました。

お話の後には、多くの生徒が積極的に手を挙げ、木元さんへの質問や感想などを発表していました。参加した生徒の感想を紹介します。



- 改めて自分中心の考え方で行動していることが多いと感じました。「相手基準」というキーワードは、相手のことを勝手に決めつけたりせず多面的に受け入れることが大事だと分かりました。「自分が平気なこと＝相手も平気なこと」とは言い切れません。人それぞれに違いがあるからこそ、相手を知ろうとする姿勢が大切だと思います。
- 差別に対して無関心でいることも差別になるため、すべての人が差別の当事者として責任をもつことが大切だと思います。差別がなくなるのを待つのではなく、自分から積極的に行動に移すことが差別解消につながると学びました。
- SNS等で、特定の国に対して偏見をもった発言をしているのを見たことがあります。私自身も同じような経験があることに気付きました。一部の人だけを見て決めつけたり、噂をうのみにしたりせず、広い視野をもって物事を判断していきたいです。
- 差別をする人は、自分に自信がもてないために他人に不満をぶつけることで「暗い満足」を得ている、というお話が印象に残りました。自分の満足のために誰かを傷つけることは決してしてはならないと思いました。

◎人権委員が考えた標語を紹介します。南教棟1階にある人権委員会掲示板もぜひ見てください。

考えよう 相手の表情 その本音
抱え込まず まずは気軽に 相談から
見て見ぬふり しない勇気が 誰かを救う

